



NO. 015

FAS通信

平成16年7月号
株式会社福地建装

上磯町中野通321番地
TEL 0138-73-5558

体の温度調整

台風銀座と呼ばれる沖縄や高知。先月も年に一度か二度来るか来ないかという、非常に大きな台風が西日本を中心に猛威をふるいました。この台風6号に伴い、6月20日は関東や西日本の各地で、最高気温が30度を超える暑さとなりました。フェーン現象が加わった福岡県太宰府市では、37.7度という6月の最高気温を観測したとニュースなどで取り上げられておりました。日本では、夏に南から暖かく湿った空気が吹くと、湿度が高くなり気温が上がるという現象が起こります。この日の福岡の温度は、37.7度で体温よりも熱いのですから耐えられない暑さです。私達の体は、暑さへの対策として汗をかくという働きをすることによって、体の表面から熱を逃がして冷やしますが、この日の福岡の気温はどうでしょう。温度もさることながら、湿度が高く、汗をかいても体の表面から熱を奪ってくれなくなります。体から水分が気化しなくなり、ダラダラと汗が出るだけで、汗が蒸発しませんから、体は冷えなくなってしまいます。特に体力の弱くなったお年寄りや、地面の近く(アスファルトなどからの熱の照り返し)の小さな子供にとっては危険な環境になります。

文明の利器

気温が37.7度の時に車に乗っていて、街の中で渋滞。エアコンがなかったら・・・と考えるだけで汗が飛び出てくる思いがします。スピードを出せば、風が体にあたりますので涼しく感じますが、止まればジトと汗が吹き出てきます。家も窓を開けた車と同じように走る事ができればエアコンは必要ないのかもしれませんが、しかし、そんな事は無理な話で、文明の利器である、扇風機やエアコンで暑さへの対処をいたします。これだけ暑くなつては、自然の風だけで過ごすのは、非常に耐え難いものがあります。窓を開けても、暑い空気しか入ってきません。だからといってエアコンをガンガン回せば電気代がかかるのと同時に、室外機からの排出熱が近隣引いては地球をも暖めます。こんな時に「ファースの家」のような蓄熱・蓄冷の概念をもった住宅があれば、構造体そのものが冷気を溜めてくれますし、気密がしっかりと取れていますから、冷気が外に漏れることはありません。それとなんとと言っても少ない電気代で、快適で爽快な空間を手に入れることができます。

幸の知恵袋

～畳についた家具の跡をとる～

お部屋の模様替えをした時や、引越しをした時に気になるのが畳に残った家具の跡の窪み。

こんな時、あらかじめ霧吹きなどで窪んだ部分を濡らしておき、アイロンをかけると直ります。カーペットや絨毯の場合は、窪んだ部分をよく揉みほぐして、スチームアイロンの湯気と熱を十分に当てます。その後に、窪んだ部分の毛を起すようにブラシを使えば、元通りフカフカになります。どちらの場合もアイロンの温度設定に十分気をつけてください。高温でおこないますと、繊維が溶けてしまったり、焦げてしまう恐れがあります。

